

つながるクルマ社会を目指して **Future Link™**

Future Link™ for Linked Automobile Society



執行役員常務
浅田 裕之
Hiroyuki ASADA

近年自動車は様々な通信メディアで双方向につながるようになってきました。車外とは各種テレマティクスサービス、DSRC端末（ETC、交通情報提供サービス）等があり、車内ではスマートフォンの急速な普及に伴い、車載システム（AVN、Display Audio等）との連携は当たり前の世界になってきています。

一方、当社事業領域である車載機器分野に眼を向けると、世界的IT企業の本格参入が進むなど技術開発競争は益々激化してきています。このような環境変化の中、当社が目指すべき領域は ①IT企業戦略との融和、②ドライバへの快適・利便の提供、③車メーカーとの安心・安全システム開発に有ると考えています。

IT企業との融和ですが、米Google社開発のAndroid OS搭載車載機の開発、Open Automotive Alliance（OAA）への参画、Apple社のCarPlay対応等を推進しています。これにより世界中の開発者が提案するサービスを車室内のユーザにも提供できるようになります。

ドライバへの快適・利便の提供ですが、サービスが自由に受けられる中で、ドライバの状態を把握し、的確に情報/サービスを提供できるプラットフォームを開発しています。今取り組んでいるのは“ADAS（Advanced Driver Assistance Systems）”が代表例です。各センターと連携しドライバの特性に応じた運転支援に取り組んでおり、ドライバに「怖い思いをさせない」システム開発をしています。

車メーカーへの安心・安全システム開発ですが、車の「走る・止まる・曲がる」についての制御は当社の事業領域ではありません。車両への直接制御（自動ブレーキなど）に至るまでに危険回避できるような“先読み運転支援”を行う事が大切だと考えています。もちろんこれを実現する為には車両周辺を監視するセンシング技術はダントツを目指す必要があります、このセンシング情報は車両制御にも使っていただけるレベルを目指します。

さて、当社は2014年10月15日につながるサービス **Future Link™**（フューチャーリンク）の発表を行いました。**Future Link™**とは当社がVISION2022で掲げたVehicle-ICT事業のコンセプトになるものであり、単にカーナビのつながる世界のことだけを言うものではありません。これから当社が提供するつながるサービスの総称で、Vehicle-ICT事業における“つながる世界のコンセプト名”を表しています。即ち、快適利便・安心安全・環境など全てを含めて、この **Future Link™** の傘の下でつながっている世界を創り上げて行く、という意味です。

Future Link™を通じ、「人」「クルマ」「社会」のデータをつなぎあわせることで新たな価値、新たなモビリティライフを創出し、ユーザー一人ひとりにあわせて提供し続けて行く、その様な“つながるクルマ社会”の実現を目指します。

浅田 裕之

*プレスリリースで用いた資料を次頁に紹介します。